

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
健康・医療心理学		選択	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
鈴木 真吾 他	B309	shsuzuki	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p><目的>ストレスと心身相関について理解でき、医療・保健分野で取り扱われる心理社会的課題とその心理的支援の実際を知る。また、現代では必須の分野である災害時の心理的支援の具体についても触れる。総じて、医療・保健分野における心の問題について複合的視野で理解して、その回復・適応過程が把握できることを目的とする。</p> <p><概要>ストレス及び健康心理学の知識・理論を素地として、医療・保健分野における領域・対象ごとの心理社会的課題と心理的支援について講義する。学生がこれら諸課題をリアルに思考できるよう、適宜グループでのワークやディスカッションを取り入れていく。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・デバート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	現場の事例や報道記事等の精読、また要支援者の立場を体感するワークを行うことがある。 医療・保健の現場で対象となる要支援者への敬意を忘れず、謙虚さを抱いて参加することを切に望む。				
教科書	教科書は特に指定しない。				
参考書	「公認心理師ベーシック講座 健康・医療心理学」金沢吉展（編著）講談社				
外部教材	必要に応じて適宜紹介する。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	ストレスと心身の疾患の関係について概説できる。			WP (4) (5) (6)	
②	医療現場における心理社会的課題及び必要な心理的支援について説明できる。			WP (1) (3) (5)	
③	様々な保健活動における心理社会的課題及び必要な心理的支援について説明できる。			WP (1) (3) (5)	
④	災害時に必要な心理的支援について説明できる。			WP (1) (3) (5)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション：健康・医療心理学とは	講義	授業時提示のキーワードを復習して理解を定着させる。		
2	ストレスの心理学	講義			
3	ストレスと心身相関・行動	講義			
4	健康心理学とポジティブ心理学	講義			
5	精神神経科領域における心理社会的課題と心理的支援	講義			
6	心療内科領域における心理社会的課題と心理的支援	講義			
7	脳神経内科・リハビリ科領域における心理社会的課題と心理的支援	講義			
8	小児医療分野における心理社会的課題と心理的支援	講義			
9	高齢者医療分野における心理社会的課題と心理的支援	講義			
10	チーム医療の世界での心理社会的課題と心理的支援	講義			
11	自殺対策問題での心理社会的課題と心理的支援	講義			
12	依存症問題での心理社会的課題と心理的支援	講義			
13	ひきこもり問題での心理社会的課題と心理的支援	講義			
14	精神保健福祉の世界での心理社会的課題と心理的支援	講義			
15	災害時の心理的応急処置と心のケア	講義			
試					

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		55	0	0	0	45	
総合 力 指 標	知識・技術力	35	0	0	0	30	65
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	15	15
	問題を発見・解決する力	10	0	0	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	定期試験（筆記試験）を行う。講義中に提示したキーワードを回答させる設問、また習得した知識を活用して意見論述を行う設問を課す。配点 55 点満点の試験とする。				研究室にて答案を返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	毎回、授業後に「授業で知った知識から得た新たな自分の気づき」を記述するリアクションペーパーを提出してもらおう。その内容（思考）の質により、毎回 1 点または 3 点を提供する。全 15 回の総配点は 15 点~45 点となり得る。				Teams にて取扱い、コメントを付して返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	他担当教員：前川真奈美〔第 2 回~第 4 回担当〕						
教員の実務経験	本科目の担当講師は、臨床心理士及び公認心理師資格を有し、18 年の心理相談業務の経験がある。また、分担講師は公認心理師資格を有し、2 年の心理査定業務の経験がある。						
実践的授業の内容	医療分野を主とした現場経験を活かして、心身の健康を理解するに足る真摯な見識を学生に教授する。						
そ の 他	授業外において、授業に関連する社会の報道記事等を探索・読解するなどを通して、得た知識を実装できるよう 15 時間相当の自主学習を求める。また、登校授業（対面授業）であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。その場合、授業は欠席として取り扱う。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われ得る。						